

「防災、減災への誓い」

校長 開 聡子

死者 6,434 人を出した阪神淡路大震災から1月17日で発生31年となりました。17日は中小・萱小で防災訓練やイベントが行われましたので、参加された方もいらっしゃるのではないでしょうか。前日の16日には、本校でも避難訓練を実施しました。これまでは地震、火事をそれぞれ分けた想定でおこなっていましたが、今回は地震からの火事発生という想定で訓練しました。自教室からではなく移動教室から避難という設定も、いつ、どこで起こるかわからない災害にも対応できるように変化を持たせました。

子どもたちは、騒ぐことなく速やかに移動し、目標時間を大幅に短縮して避難を完了しました。いつもながら、真面目に取り組んでくれたと嬉しく思いました。でも結果的に大切なことは、「時間」ではなく、「誰一人命を落とすことなく無事である」こと。訓練の最後に、私からは次のような話をしました。

31年前、私は池田市のとある中学校に勤務をしていました。そこは他府県からも通学している学校で、神戸に住んでいたある生徒が亡くなりました。中学3年生で受験勉強真っ只中。16日の夜も、家族が2階で就寝した後も、一人1階で勉強し、そのまま就寝したようです。“たまたま”その日は1階で。“たまたま”です。激しい揺れにより、自宅は1階が押しつぶされて、彼は亡くなりました。目標に向かって一生懸命努力していた若者が、どうしてこんな形で命を落とさなければならないのか。さぞかし無念だったろう、この世に神様はいないのか！とさえ思い、本当にやるせない気持ちになりました。生きていれば46歳。ちょうど中学生のみなさんのご両親ぐらいではないでしょうか。亡くなった彼の気持ちやご家族のお気持ちを慮ると、今でも涙がわいてきます。

あれから随分と時間が経ち、その後も大阪北部地震や東日本大震災など大きな地震がありました。1月になるとどうしてもこのことが思い出され、中学生のみなさんをみると、「(今年も)無事でよかったね」と思ってしまいます。(命は偶然の重なりなのかもしれません。それだけに、今、命あることに感謝したいです。)

地震を防ぐことはできません。地震によって起こることについても、防げるものもあれば防げないものもあります。ですから、我々は、防げるであろうものについて、防ぐことができるように、粛々と準備を進めていくしかないのではないのでしょうか。そして、今回の避難訓練もその一つだと考えます。

2年生のみなさんは、11月の宿泊学習で「人と未来防災センター」に立ち寄り、防災・減災について学びましたね。また、今回、全校生徒のみなさんに「みんなで備える防災」という冊子を配布しています。この機会に、ぜひご家族と一緒にページを繰っていただきたい。長く生きている私も、意識していなかったことや準備していないことがありましたよ。